

講演会

日常学としての民俗学

—柳田國男と橋浦泰雄から考える—

日時 令和元年12月8日(日)午後2時～3時30分

会場 鳥取県立博物館 講堂 とっとり県民カレッジ連携講座

申込 不要 参加(聴講)料 無料



柳田國男

かつて柳田國男は『明治大正史世相篇』(1931年)という書物で、明治・大正時代の日本人の暮らし方の変化(生き方の変化)を生き生きと描き出しました。その柳田が日本の民俗学を形成する上で、裏で支え続けていったのが、鳥取県岩美町出身の橋浦泰雄でした。二人には共通点が多く、橋浦は柳田の並走者として多方面で活躍しますが、二人のもっとも根本にあるのは、「日常」を見つめることであり、自分たち「生活」のなかの、足元の歴史を照らすことでした。



橋浦泰雄

この講演会では、民俗学本来の、身の回りの日常的でありふれた事象を再び着目し、現代社会に見られる事例を、日常学としての民俗学の観点から、取り上げながら、現在学としての民俗学のあり方を紹介します。

【講師紹介】 岩本通弥(いわもと・みちや)

1956年、東京都生まれ。東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 教授。日本を中心に東アジアの民俗学を専門とし、日常学としての民俗学を構想している。日本民俗学会第29期会長(2012年10月～2014年9月)。主な編著作として、『都市の暮らしの民俗学1-3』新谷尚紀共編(吉川弘文館、2006年)、『ふるさと資源化と民俗学』(吉川弘文館、2007年)がある。

問い合わせ先

鳥取県立博物館 学芸課 人文担当

電話 0857-26-8044 ファクシミリ 0857-26-8041
〒680-0011 鳥取市東町二丁目124番地



鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM